（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ６ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立大宮東高等学校 ）

目指す学校像	安全・安心な環境の下、文武両道を旨とし、正義感溢れる心身ともに健康な生徒を育てる学校

重 点 目 標	1　生徒の能力を最大限に引き出す授業を実践し、自主学習する習慣を確立させ、確かな学力の定着を図る。 2　組織的・計画的なキャリア教育を通して、生徒が主体的に一つ上を目指し進路を実現できる能力を培う。 3　生徒指導の充実と部活動等の活性化を図り、安全・安心な環境の下、高い規範意識と豊かな人間性を持った生徒を育成する。 4　保護者や地域と密接に連携し、地域に信頼される開かれた学校づくりをする。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
　　生徒　　名
　　事務局(教職員)　　名

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】ICTを効果的に活用した授業改善が生徒の主体性喚起につながっている。一方、家庭での学習時間30分以下の生徒が約８割と、学習習慣の定着には至っていない生徒が多い。 【課題】学習習慣の定着のためには生徒が自ら学びに向かえるよう基礎学力の確立と、自主学習の習慣化のための働きかけを、家庭と連携しながら組織的に取り組んでいく必要がある。	生徒の基礎学力の確立、自己学習の習慣化を図る。	①全教科でICTを生徒が自ら学びに向かうことを促進する目的で活用し、基礎学力の確立を図る。 ②学習支援アプリ（metamoji等）を活用し、隙間時間や、家庭での自主学習に繋げられるように工夫した教材や課題の作成・提示を行う。 ③①、②に資するために授業公開、職員研修会を開催する。 ④面談や学校公開、HPによる配信など、様々な機会を活用し保護者に説明し協力を仰ぐことで、連携を図る。	・学習意欲の向上と授業満足度、生徒自身のiPadの活用状況に係るアンケートの結果 ・研修会の実施状況と教員のiPadの活用状況や授業改善状況 ・アンケートによる生徒の自主学習時間の状況把握				
2	【現状】進路先や入試方法が多様化する中、進路希望に対応したきめ細やかな個別指導により、高い進路決定率とすることができた。また、生徒・保護者からはさらなる個別指導充実の要望が高まっている。 【課題】個に応じた進路指導を計画的に行っていくためには、主体的に進路選択できるよう、早期からの進路意識の向上が必要である。新教育課程に基づく入試の動向といった、教職員の進学、就職(公務員)問わず多様な進路希望に応える指導の研究、実践が課題である。	生徒の可能性と主体性を引き出し、日々の教育活動で培った「やり抜く力」をベースに生徒に「一つ上」の高い進路意識を醸成させ、サポートする。	①3年間を見通した進路指導計画のもと、進路部・学年が連携し組織的かつ継続的な進路指導を行い、「一つ上」の進路実現を促す。 ②新教育課程に基づく大学入学者選抜等への対応と、現況に即した進路指導とするために、外部の職員向け進路研修会に積極的に参加し情報を収集する。 ③ICTを活用し進路情報を効果的に提供し、個別の進路希望に対応する。 ④進路面談を積極的に行い生徒の「やり抜く力」を培い、粘り強く進路実現に取り組ませる。	・進路行事と分野別指導・説明会等の実践状況。進路だより等の啓発資料の発行状況 ・アンケートによる保護者・生徒の進路指導満足状況。 ・補習・面接・小論文等の指導実施状況 ・職員研修会実施状況や研修会への参加状況、模試等の実施状況とその活用状況				
3	【現状】生活ルールや交通マナーについて、機を見て丁寧に指導している。しかし、外部からの苦情指摘、生徒の特別指導のに件数は減少していない状況がある。部活動では、感染対策と両立させながら活動を行い、各大会に出場し、複数の部活動が関東大会や全国大会入賞を果たすことができた。 【課題】指導すれば問題行動を修正しようとすることができるが、自ら考え主体的に行動するまでに至っていない。未然防止の視点で、生徒が自ら考え実践できるように働きかけていく必要がある。部活動以外にも、学校行事や特別活動など、様々な活躍の場を生徒・教員一体となって考えていけるかが課題である。	生徒がルールを考え、率先して取り組んでいくなど、生徒全員に投げかけ取り組み、改善の方向となるよう働きかけていく。 生徒理解と人権を尊重し、適切な指導を通して生徒の主体的行動を育てる。	①行動の意味を考え、自ら適切に判断し主体的行動が促せる指導を実践する。 ②ネットトラブル、人間関係形成などをテーマに専門家による講演会を開催し、正しい知識に基づく生徒の判断力を育成する。 ③保護者と連携した指導・支援を行い生徒自身のよき変容を促す。 ④県警指定の自転車マナーアップ推進校の事業を効果的に推進する	・生徒アンケートによる意識把握 ・SC、SSW、特別教育支援委員会、相談委員会等の活動状況 ・集会・講演会の開催状況や講演会後の生徒の理解度				
		目標に向かって主体的に努力し、生徒の「やり抜く力」を育み、時代に対応した新たな部活動や学校行事を活性化させる。	①部活動顧問の指導力を高めた効果的な活動を通じ、全国大会や関東大会等の上位大会への出場実績を維持・向上させる。 ②行事等を、生徒が主体的に考え参加・運営するなど活躍の場が増えるよう工夫し行う。	・各部活動の取組状況と実績、部活動加入者数、顧問対象の研修会の実施状況 ・アンケートによる生徒、保護者の部活動満足度・学校行事満足度 ・学校行事における生徒の主体的な取組状況				
4	【現状】学校説明会への生徒参加、部活動体験実施等により本校の魅力をアピールしている。しかし志願者増にはつながらない結果となった。近隣施設等との交流は再開、学校行事・PTA行事なども開催できるようになり、平時の本校の姿を見てもらえるようになってきた。 【課題】中学生を対象にした授業公開など、本校の魅力が伝わる機会を充実させ、広げていく必要がある。また、地域・保護者との連携を深めるためにも、さらに積極的に情報発信していけるかが課題である。	生徒の良い面をアピールし、本校の魅力を中学生に伝えること、地域との連携を深めるための開かれた学校づくりを推進する。	①ホームページの動画や学年、部活動の紹介の充実。 ②部活動に加えてDXハイスクールとしての取組など、多様な場面での「がんばる大東生」をPRし、生徒募集につなげる。 ③開かれた学校づくりのために、近隣施設等との交流、授業・行事の公開等を積極的に推進する。	・ホームページの更新回数やアクセス数 ・学校説明会の参加者数やその満足度と好感度及び入学志願者数 ・近隣施設等との交流・ボランティア活動等の地域交流の実施状況				